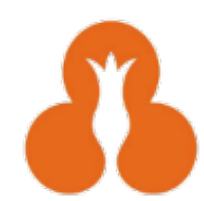


# 社会情勢の変化・利用状況等



## 1. 社会情勢の変化

- (1) 官民連携・市民参加の推進
- (2) 多様な体験活動や外遊び
- (3) 自然を活用した解決（NbS）・健康に対する意識の変化
- (4) 利用ニーズ（特に観光需要）の変化

## 2. 開園後の利用状況とニーズ

- (1) R4年度の利用状況
- (2) 市民団体のニーズ
- (3) 民間事業者のニーズ

## 3. まとめ



# 1. 社会情勢の変化 (都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会 提言より)

- 令和4年10月に開催された都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会で示された提言では、近年の社会経済状況の変化として、以下の内容が示されている
- 特に「**官民連携・市民参加の推進**」、「**多様な体験活動や外遊び**」、「**自然を活用した解決 (NbS)**」、「**健康に対する意識の変化**」等に対する機運が高まっている

社会経済状況の変化	概要
① 市民・事業者の意識変化 ～参画意識の高まり、官民連携による社会課題解決と新たな市場創造・成長～	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR 活動、ESG 投資など企業の社会貢献活動が浸透し、将来を担う Z 世代やミレニアル世代の若者は、社会貢献の意識が高いといわれ、社会課題の解決に市民が参画する気運が醸成されている</li> <li>あらゆる分野において <b>官民連携による社会課題の解決とそれに伴う新たな市場創造・成長</b>を進めることが求められている</li> </ul>
② 人口減少、少子高齢化への対応 ～全てのこどもの健やかな成長を目指すこども政策の推進～	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化や人口減少に歯止めがかからないなか、全てのこどもの健やかな成長、Well-being の向上のためには、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや社会で生き抜く力を得るための糧となる、<b>多様な体験活動や外遊びの機会に接する</b>ことができる必要がある</li> </ul>
③ 地球環境問題の新たな潮流 ～人と自然が共生する持続可能でレジリエントな都市の形成～	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会課題の解決に自然を活用し、人間の幸福及び生物多様性による恩恵を同時にもたらす <b>「自然を活用した解決 (NbS)」</b>が注目されている</li> <li>新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を契機として、ヒトの健康、動物の健康、環境の健全性はどれが欠けても成立せず、3つの衛生の達成に統合的に取り組むことを提案する <b>ワンヘルス・アプローチ</b>が唱えられている</li> </ul>
④ 新型コロナの感染拡大を経たニューノーマル社会への対応 ～人中心・市民目線のまちづくり、ニーズに迅速に対応する機動的なまちづくり～	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を契機として、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化した</li> <li><b>公園などの屋外空間は、過密を避けながら様々な活動を行うことができる場として利用ニーズが高まっている</b></li> </ul>

# 1. 社会情勢の変化 (1) 官民連携・市民参加の推進

- 1999年のPFI法の施行以降、2003年の指定管理者制度、2011年のPFI法改正による公共施設等運営権制度（コンセッション）、道路空間や河川空間における民間活力導入を推進するための特例制度が制定される等、官民連携を推進する動きが様々な分野で生じている
- 2017年には都市公園法等の改正によりPark-PFI制度が制定され、民間事業者の資金やノウハウを活用した公園づくりが全国各地で実施されている
- Park-PFI制度を活用して公園整備を実施している公園は135箇所（R4年12月時点）あり、そのうち約50箇所でアウトドア関連（バーベキュー、キャンプ、グランピング、アスレチック、プレーパーク、サイクリング、アーバンスポーツ、運動場等）の機能を導入している

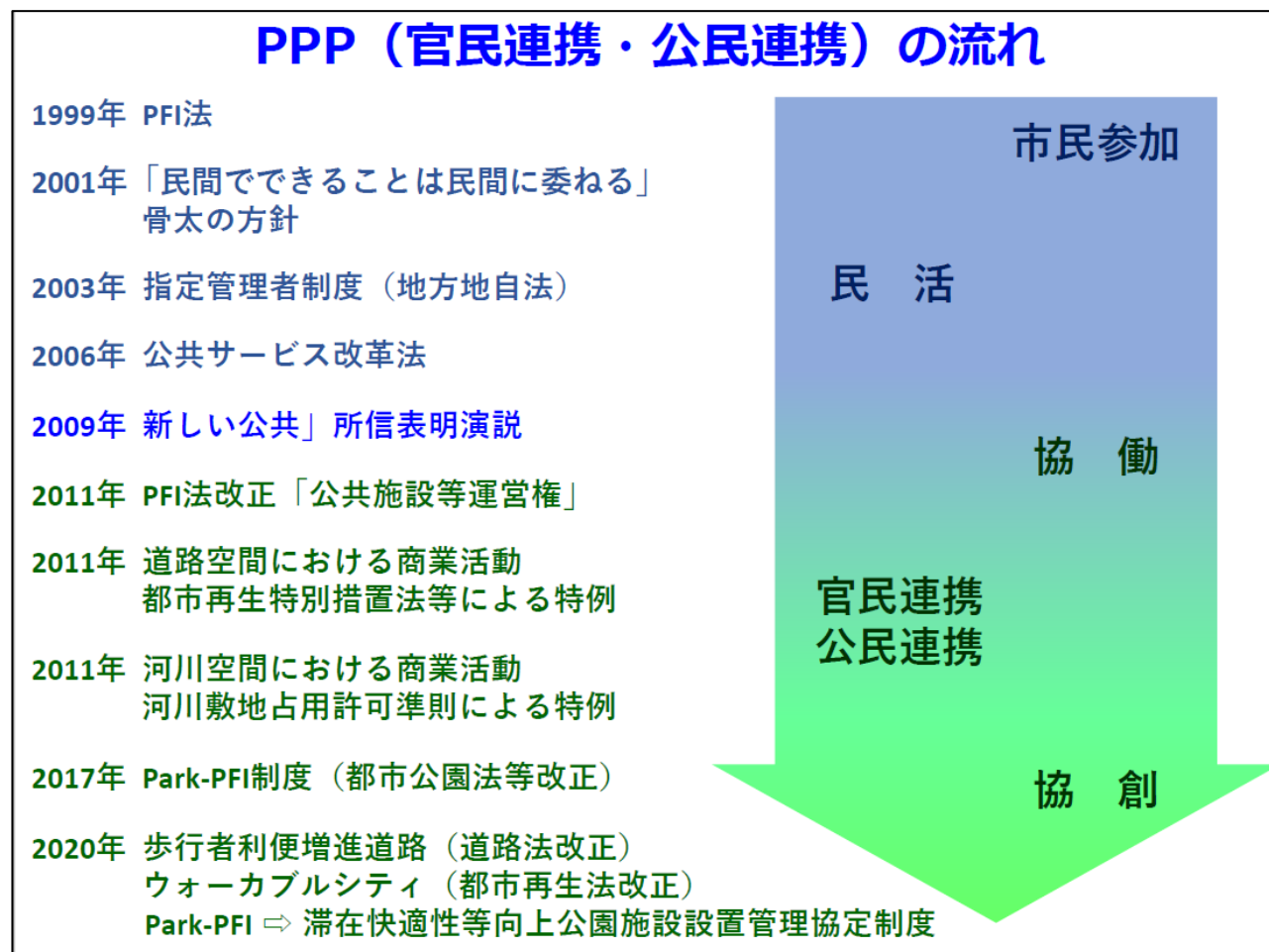


図 官民連携・公民連携の流れ

（出典：沖縄地域PPP/PFIプラットフォーム 第10回セミナー  
[https://www.okinawakouko.go.jp/userfiles/files/20220222\\_park\\_pfi.pdf](https://www.okinawakouko.go.jp/userfiles/files/20220222_park_pfi.pdf)）

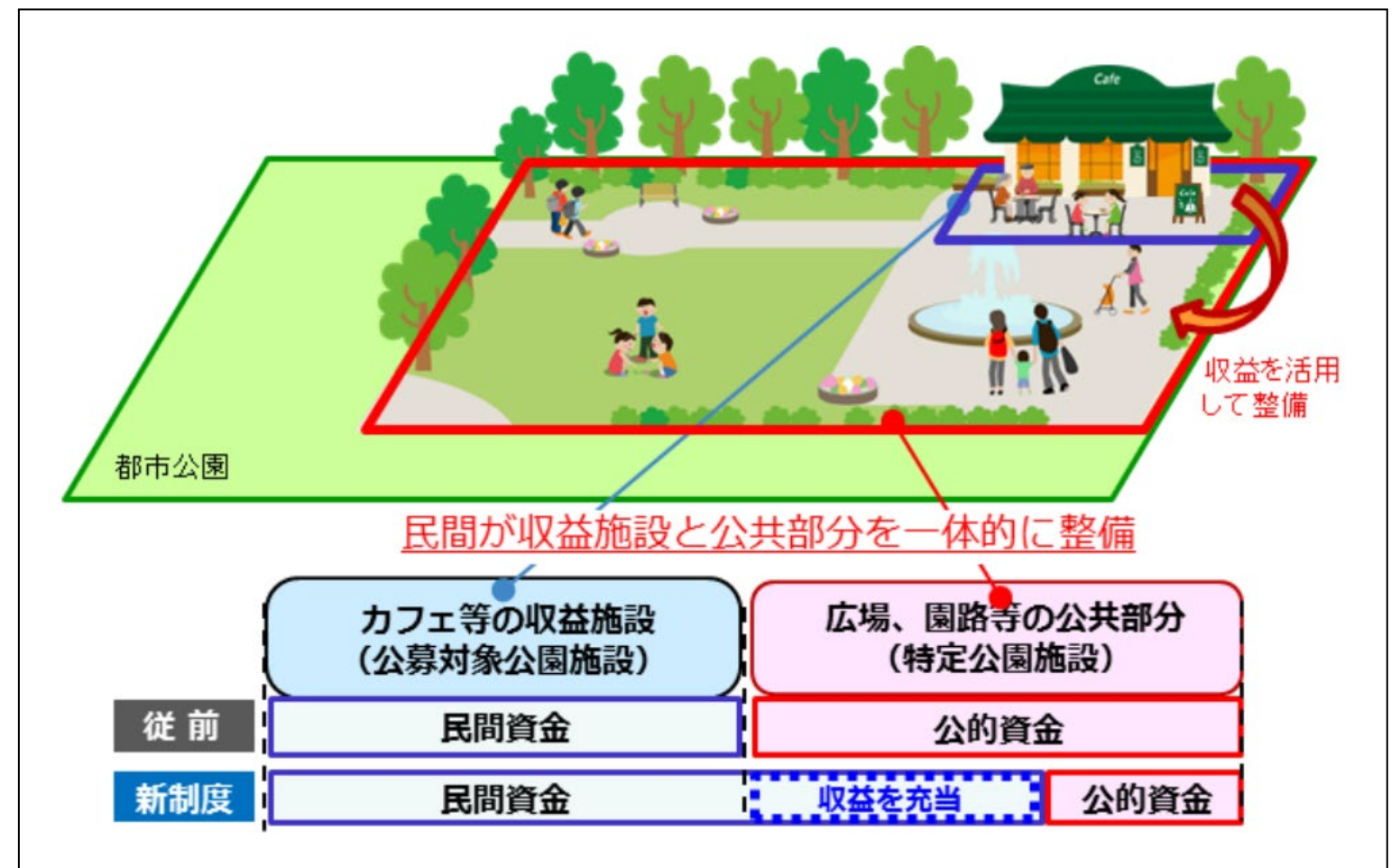


図 Park-PFIのイメージ

（出典：都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン <https://www.mlit.go.jp/common/001197545.pdf>）



# 1. 社会情勢の変化 (2) 多様な体験活動や外遊び

- 近年子供が自由に遊べるような空き地や裏山等が減少傾向にあり、**自然の中で遊ぶことによって得られる様々な教育的機会が失われている状況から、都市公園等で冒険遊び場を開催する事例が増えている**

※冒険遊び場：遊びを指導し見守る管理者等（プレーリーダーなど）が常駐して遊びの価値を最大限に尊重しながら遊びの環境を作り、子どもが自分の責任のもとでチャレンジ性の高い自由な遊びができる場（都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第2版）H26.6より）

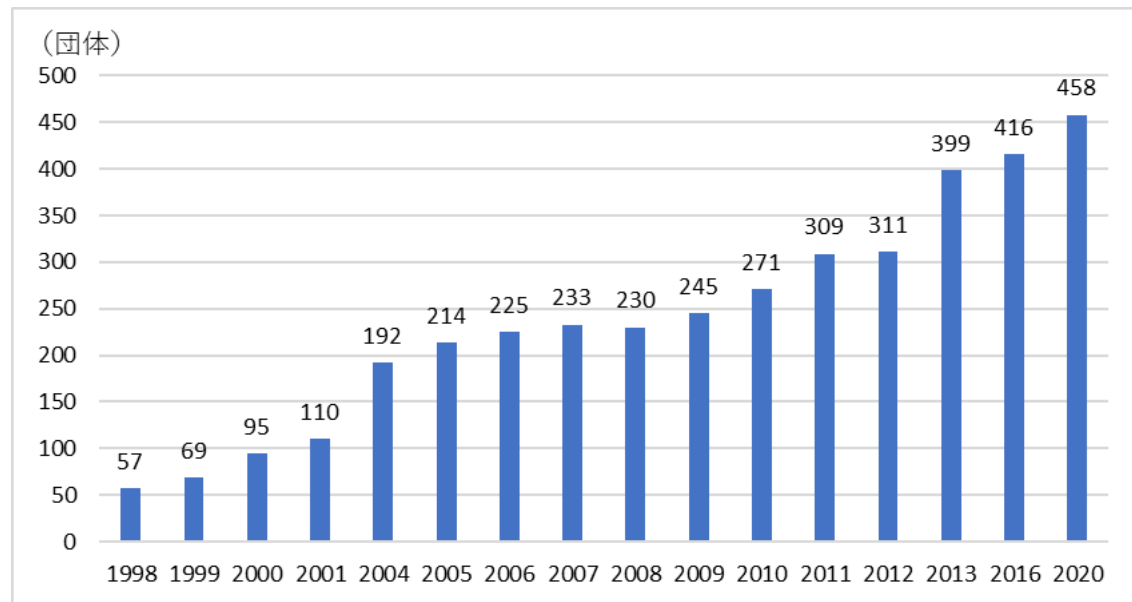


図 プレーパークの活動団体数の推移

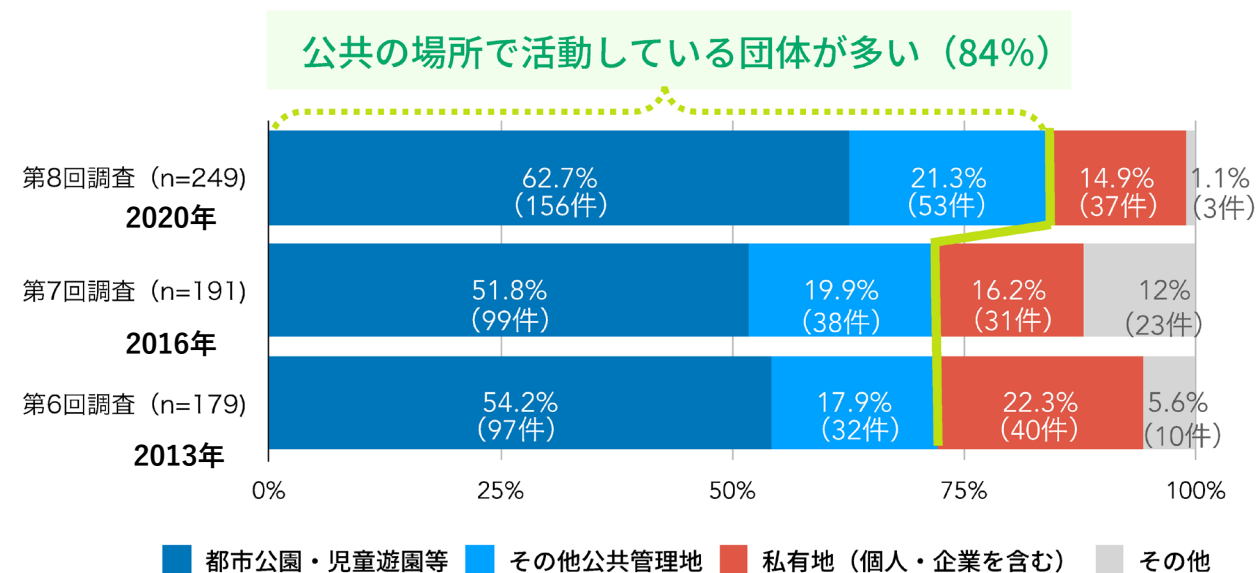


図 プレーパーク開催場所の割合

（出典：特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会より一部作成  
<https://bouken-asobiba.org/know/index.html>）

## ■プレーパークこうりがおか

（2019年度 都市景観大賞 景観まちづくり活動・教育部門 優秀賞受賞）

- 里山を健全に維持管理する活動と共に、子どもが豊かな自然の中で遊ぶプレーパークを定期的に運営。里山保全とプレーパークを両立させる（技術を伝承させる）新しいプログラムとして高く評価。



プレーパークとして利用されている緑地の風景。



子どもたちは山での遊びを考えるなかで自主性と想像力を学ぶ。



緑地の整備方針を地域住民や参加者と協議中。



ノコギリの使い方を真剣に教わる子どもたち。

図 プレーパークこうりがおかでの活動

（出典：2019年度 都市景観大賞 受賞概要 <https://www.mlit.go.jp/common/001290596.pdf>）



# 1. 社会情勢の変化 (3) 健康に対する意識の変化

- 新型コロナを契機にワンヘルス（人と動物の健康と環境の健全性は生態系の中で相互に密接につながり、強く影響し合う一つのものであるという考え）に基づく取組が複数の自治体で推進されている
- 複合施設やオフィス等ではバイオフィリックデザイン（「人間が自然とつながりたい」という本能的欲求を活用したデザイン手法）が活用されており、幸福度の向上、生産性の向上、創造性の向上に自然が寄与することが期待されている
- 農作業等の効果として、ストレス軽減や幸せホルモン（オキシトシン）の上昇を確認

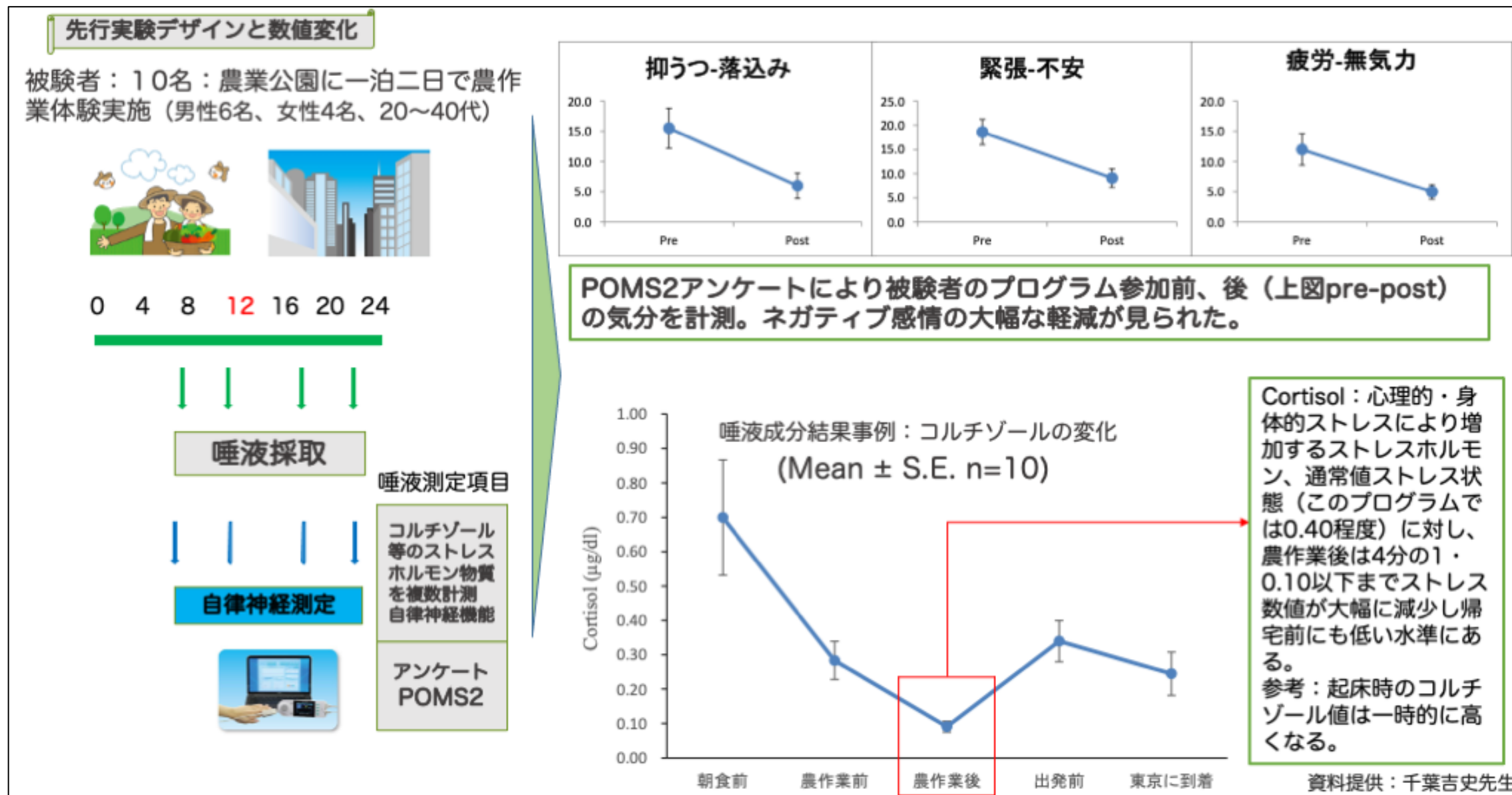
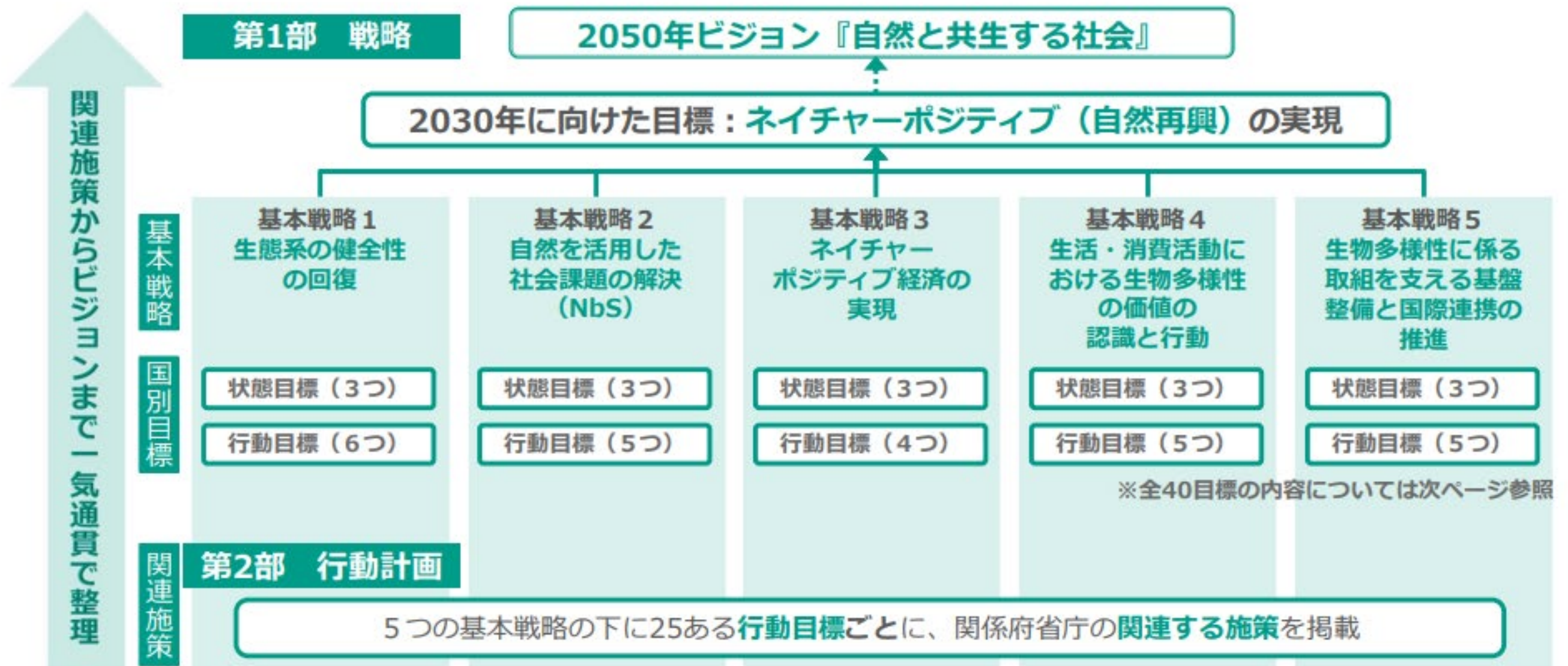


図 農作業がもたらすストレス軽減効果

（出典：一般社団法人日本食農連携機構HP  
<https://jfaco.jp/report/2072>）

# 1. 社会情勢の変化 (3) 自然を活用した解決 (NbS)

- 社会課題の解決に自然を活用し、人間の幸福及び生物多様性による恩恵を同時にもたらし「自然を活用した解決 (NbS : Nature based Solutions)」という概念が気候変動をはじめ様々な分野において注目されている
- NbSの取組として、グリーンインフラ等があげられる





# 1. 社会情勢の変化 (4) 利用ニーズ (特に観光需要) の変化

- 今後、神戸空港に国際線が就航
- 神戸空港に就航しているB737-800型の航空機の場合、韓国や台湾、中国・上海のほか、グアムやサイパン、ベトナムやタイ、シンガポール等が圏に入り、アジア圏からの訪日外国人観光客がターゲットとなり得る
- 新型コロナ収束後、観光目的に占めるアウトドア体験等の割合は兵庫県が全国に先んじて増加傾向に転じている



図 神戸空港から今の主力機(B737-800型)で到達できる範囲

(出典: 神戸新聞記事2022年9月18日

<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202209/0015650393.shtml>)

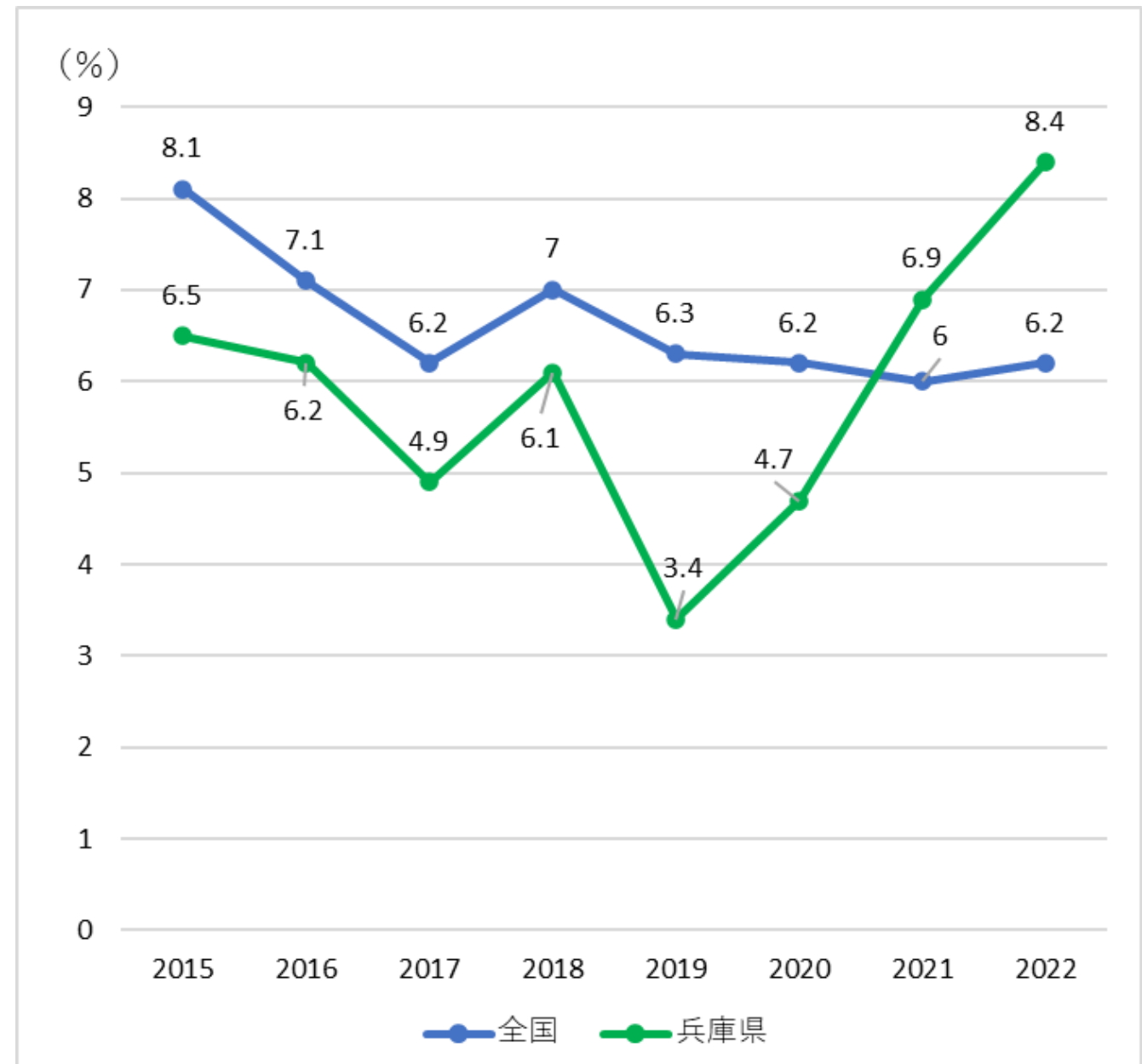


図 観光目的に占めるスポーツ・アウトドア体験の割合の推移

(出典: 日本交通公社「旅行年報」より作成

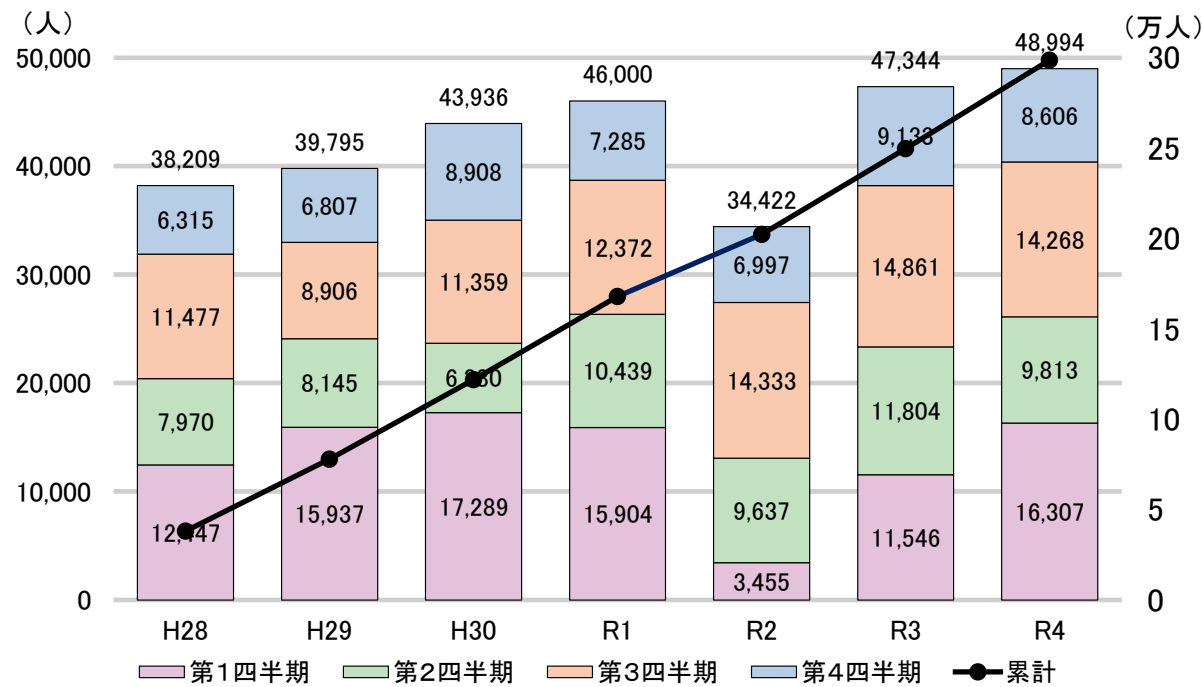
<https://www.jtb.or.jp/book/category/annual-report/>)



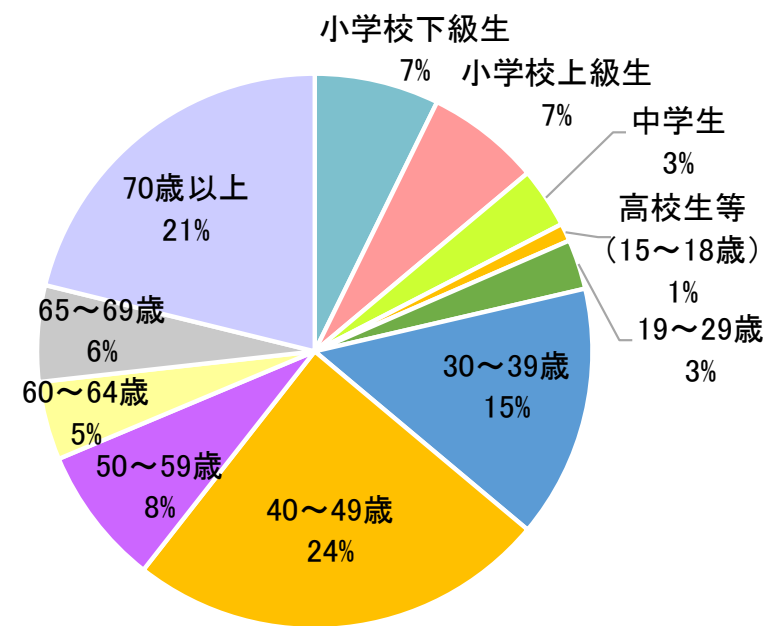
## 2. 開園後の利用状況とニーズ (1) R4年度の利用状況

- 神戸地区は平成28年5月に第1期開園し、年間利用者数は約4～5万人で推移
- 令和4年度の利用者の9割が兵庫県民で、約7割が神戸市民、利用者の約8割が30代以上、家族連れが約60%

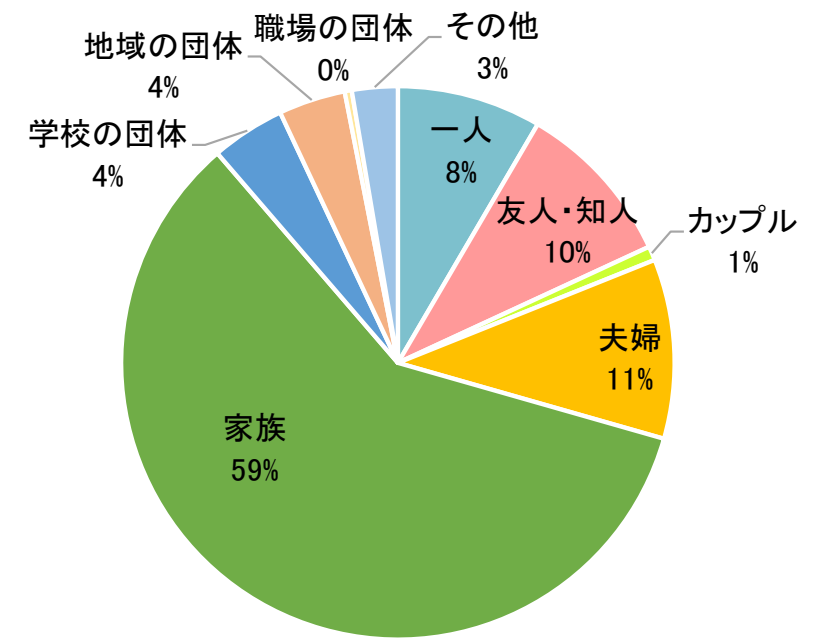
■利用者数の推移



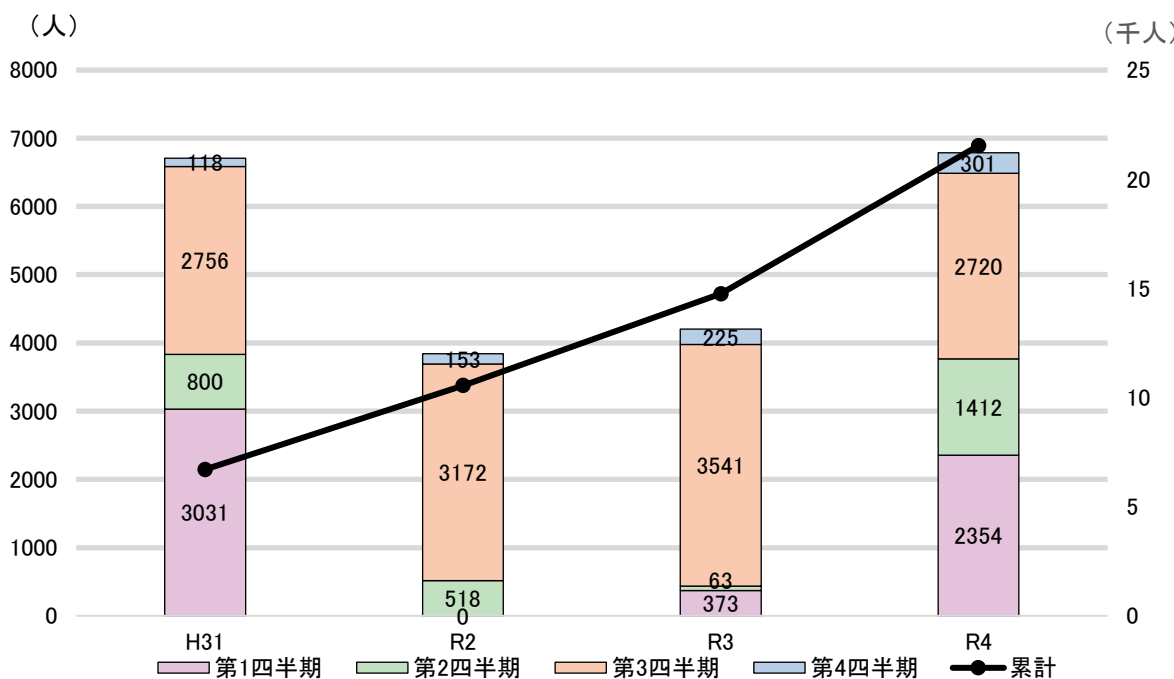
■利用者の年齢層



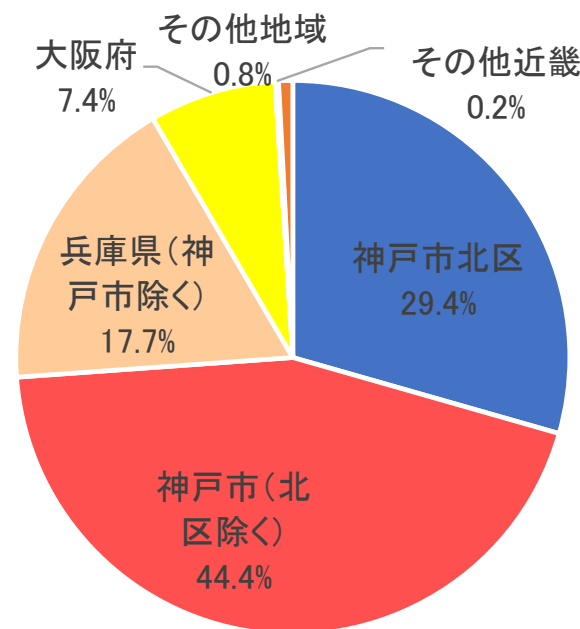
■利用者の構成



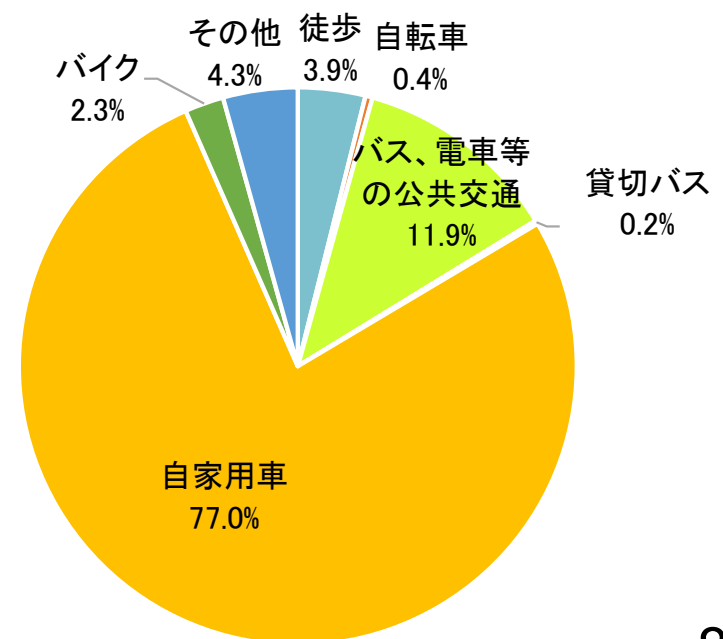
■学校団体等の利用者数の推移



■利用者の居住地



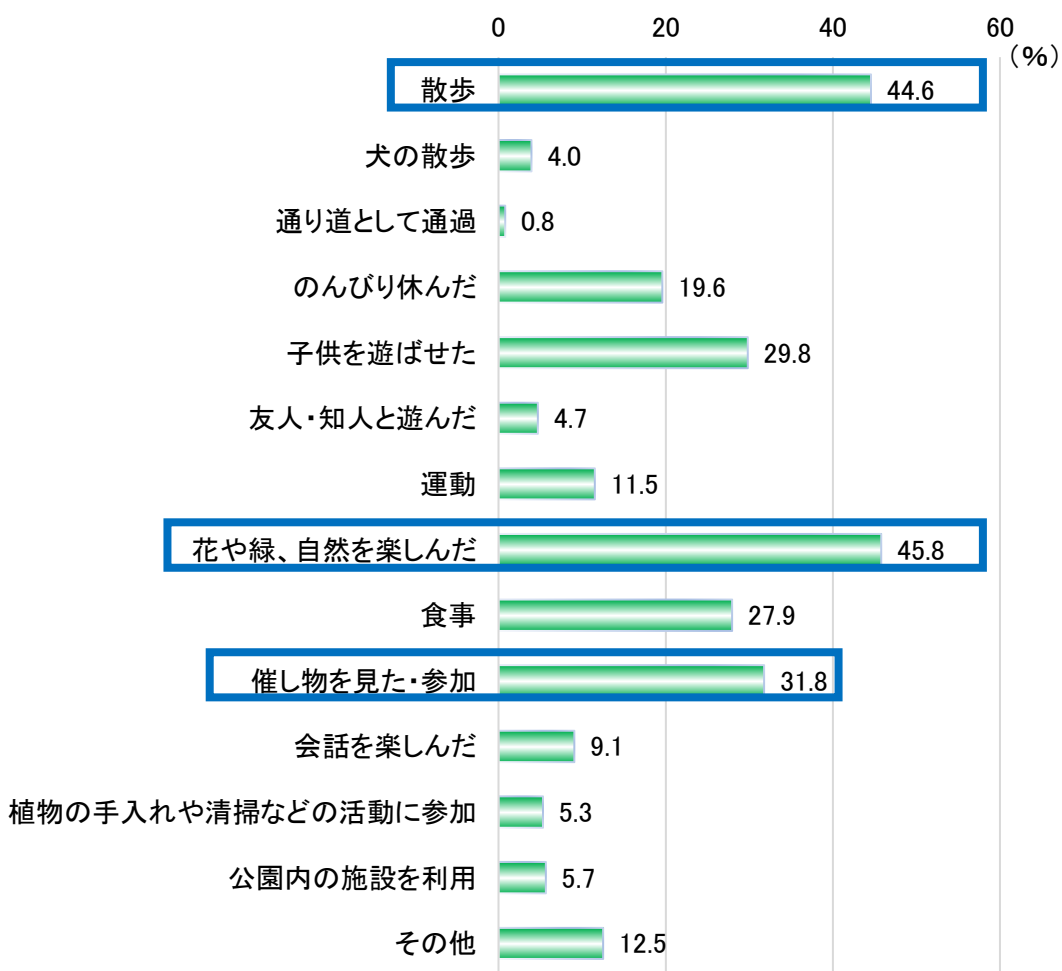
■利用者の交通手段



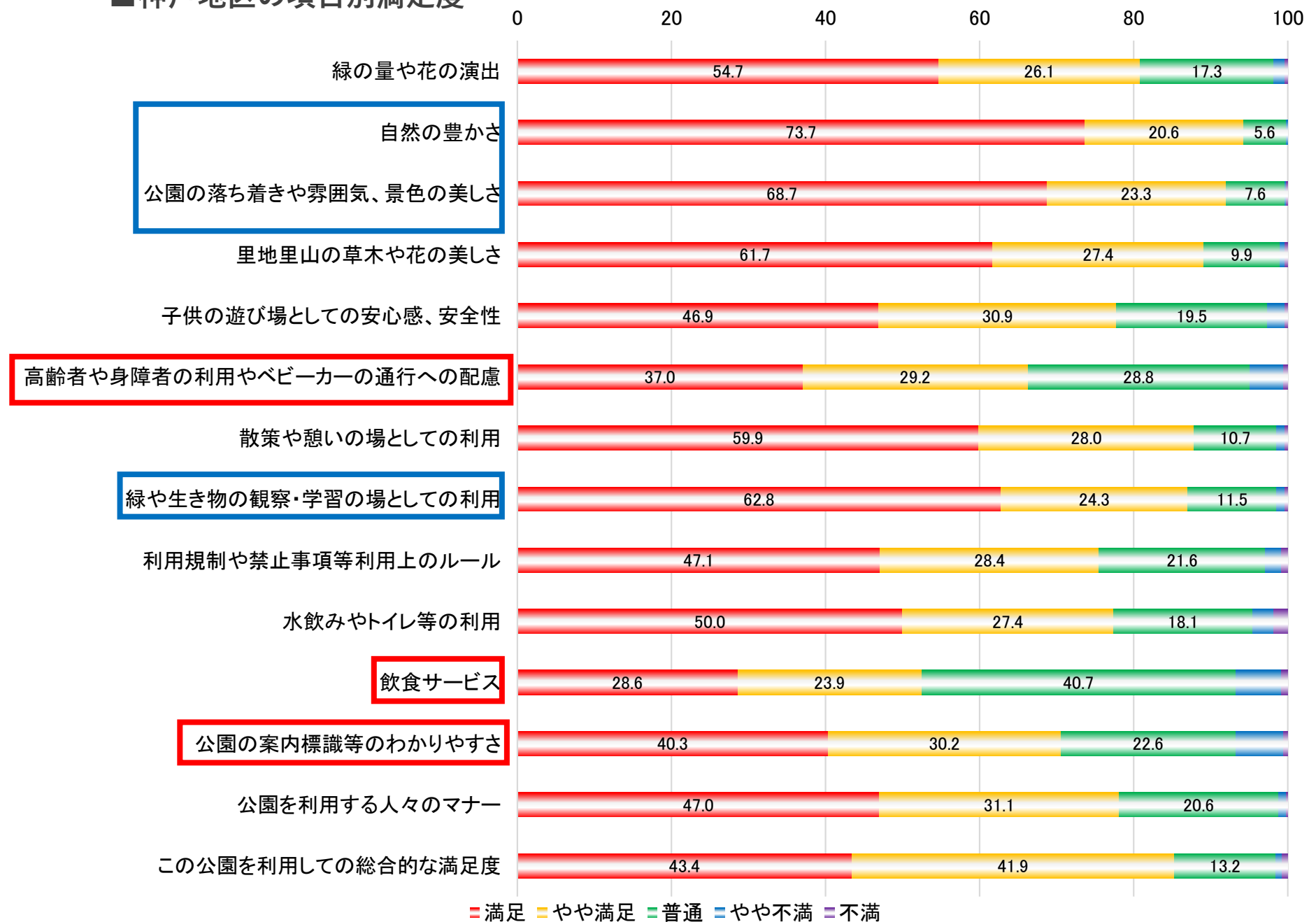
## 2. 開園後の利用状況とニーズ (1) R4年度の利用状況

- 神戸地区の利用目的は、散歩、緑・自然を楽しむこと、催し物への参加が中心的
- 飲食サービス、高齢者や身障者の利用等への配慮や、案内標識等の分かりやすさの満足度が比較的低い

■神戸地区の利用目的



■神戸地区の項目別満足度

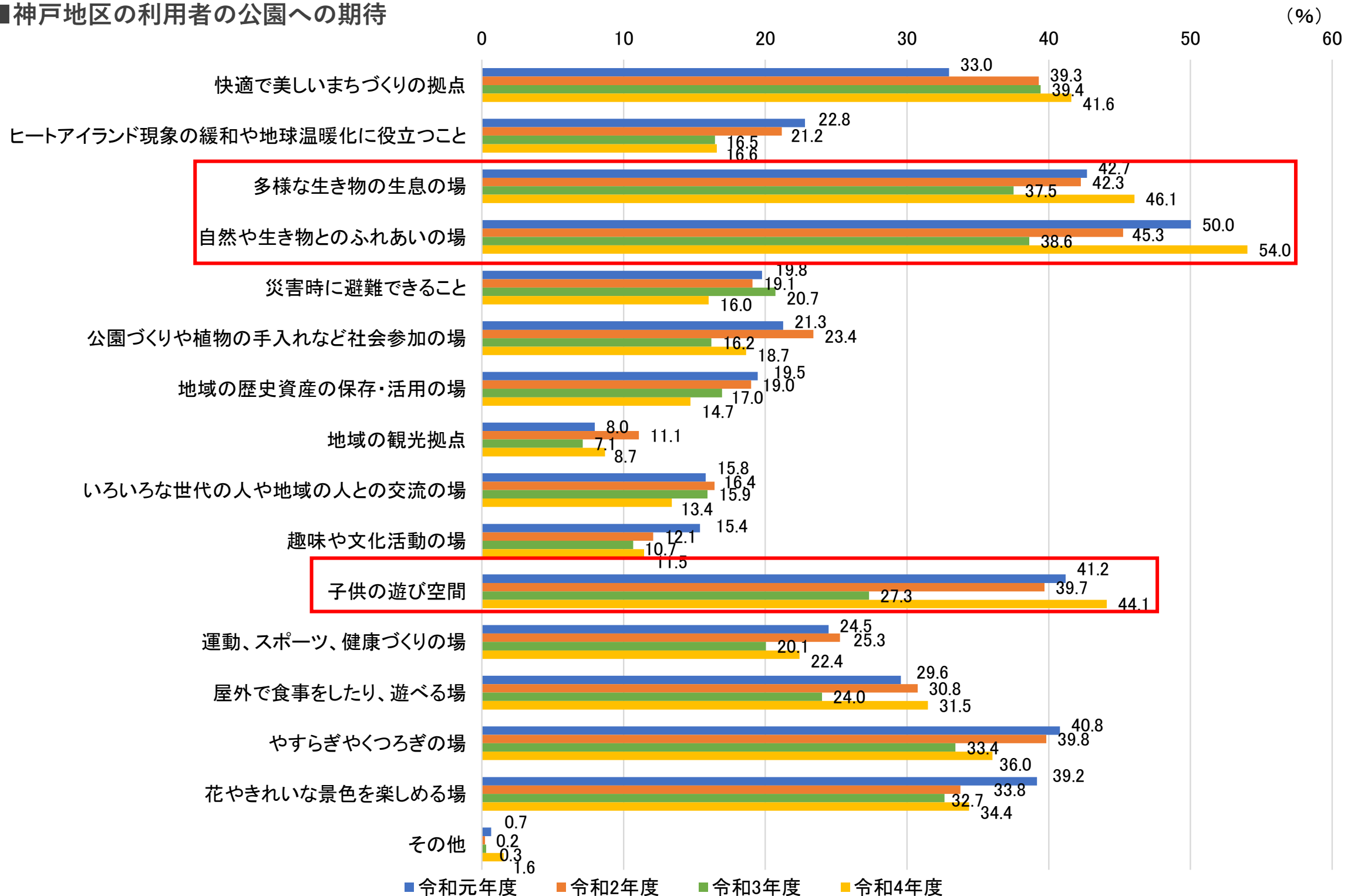




## 2. 開園後の利用状況とニーズ (1) R4年度の利用状況

- 自然や生き物の生息やふれあいの場、子どもの遊び空間が求められている

■神戸地区の利用者の公園への期待



## 2. 開園後の利用状況とニーズ (2) 市民団体のニーズ

- 14の市民団体が、耕作管理や樹林・竹林管理、自然調査、環境学習の面で参画
- 団体からのニーズとして、景観・環境保全面では表土の保全・竹林管理、活動時の利便性向上の面では水田補修工事や資材置き場や資源保管場所の増設、イベントのための足洗い場や調理設備の整備、その他獣害対策や、人材不足や人材の高齢化対応への支援などがある

活動種別	団体数
水田耕作管理	6
畑作耕作管理	2
樹林・竹林管理	6
野草管理・栽培	3
茅場管理	1
きのこ栽培	4
炭焼き	1
自然環境調査・保全	5
文化・歴史調査	2
環境学習	5
その他の公園管理	5



田植えや稲刈り体験



ため池のかいぼり



野鳥の観察会



きのこづくり



竹を使った遊具づくり



茅を使ったティピづくり



炭焼き



野草のてんぷら体験

※重複してカウント





- 令和3年度に実施したマーケットサウンディング調査では、アウトドア活動（バーベキュー、キャンプ、アスレチック、トレイルラン等の林間スポーツコース、スケートボード場）、農業・園芸体験、環境学習や天体観測、サウナ、ドッグラン、小型モビリティの導入などの事業アイデアを確認
- 事業エリアとしては平坦地である管理棟周辺の駐車場スペースや整備予定の里山広場等に対するニーズを確認

### ■ サウンディング調査の実施概要

神戸地区「森のゾーン」における官民連携事業の導入に向けたマーケットサウンディング調査	
実施期間	令和4年2月28日～令和4年3月4日
対話調査参加者	11社

### ■ 事業アイデア

- ① 里山や棚田を活かしたキャンプ場、企業研修などで中期利用もできる宿泊施設、サウナなどの温浴施設
- ② 開園区域の収穫体験等と連携したバーベキュー場、レストラン・カフェ、マルシェ
- ③ 里山林を活かした大規模で独自性の高いアスレチック遊具（ネット遊具、ジップライン等）
- ④ トレイルラン、マウンテンバイク、シクロクロス、バギーなどの林間スポーツコース
- ⑤ エントリー層向けの農業・園芸体験やキャンプ入門、環境学習や天体観測などの学びの場
- ⑥ 体験プログラムに関連するアウトドア用品などのショップ
- ⑦ 都心部で不足しているドッグラン、スケートボード場
- ⑧ 隣接する都市公園等とのアクセス、園内移動を楽しめる小型モビリティの導入

### ■ 事業エリア

広大な里山の整備・管理は困難であり、平坦地である管理棟周辺の駐車場スペース、今後整備を計画する里山広場を主な事業エリアとし、里山の全体又は一部を活動エリアとして一体的に利用することを想定

## 3. まとめ

### ■ 前回のご指摘事項

- 利用者（ターゲット層）は、広域利用、市民団体、地域、学校団体、インバウンドの集客も考慮。
- 多様な主体との連携を推進。事業者間のマッチング等の工夫、人材育成も視野に入れるべき。
- ただし、里山の保全ではなく開発にはならないように。
- 新しい里山を志向するなど、全国に波及させていけるような取組を目指すべき。
- 将来的なニーズを見据えて計画を立て、実現性を上げるべき

### ■ 社会情勢の変化

- 様々な分野で官民連携が推進されており、都市公園においては全国的にPark-PFI制度を活用した公園整備や魅力向上事例が増加（Park-PFI制度を活用している公園のうち、約40%がアウトドア関連の機能を導入）
- プレーパークをはじめとする多様な体験活動が広がっている
- 健康に対する意識、自然を活用した社会課題の解決に対する期待が高まっている
- 2030年頃からの神戸空港への国際線就航により、主にアジア圏からの訪日外国人観光客が増加の見込みで、アウトドアアクティビティに対する期待も高い

### ■ 開園後の利用状況とニーズ

- 神戸地区の利用目的は、散歩、緑・自然を楽しむこと、催し物への参加が多く、自然や自然環境学習に関する満足度は比較的高い
- 市民団体からのニーズは、公園内の景観・環境保全や、活動の利便性の向上、活動支援（人員不足や財源不足）、獣害への対応など
- サウンディング時の民間事業者からの提案（事業内容）は、アウトドア活動（バーベキュー、キャンプ、アスレチック、トレイルラン等の林間スポーツコース、スケートボード場）、農業・園芸体験、環境学習や天体観測、サウナ、ドッグラン、小型モビリティの導入など、その事業エリアとしては、平坦地である管理棟周辺の駐車場スペースや整備予定の里山広場等



以下、参考資料



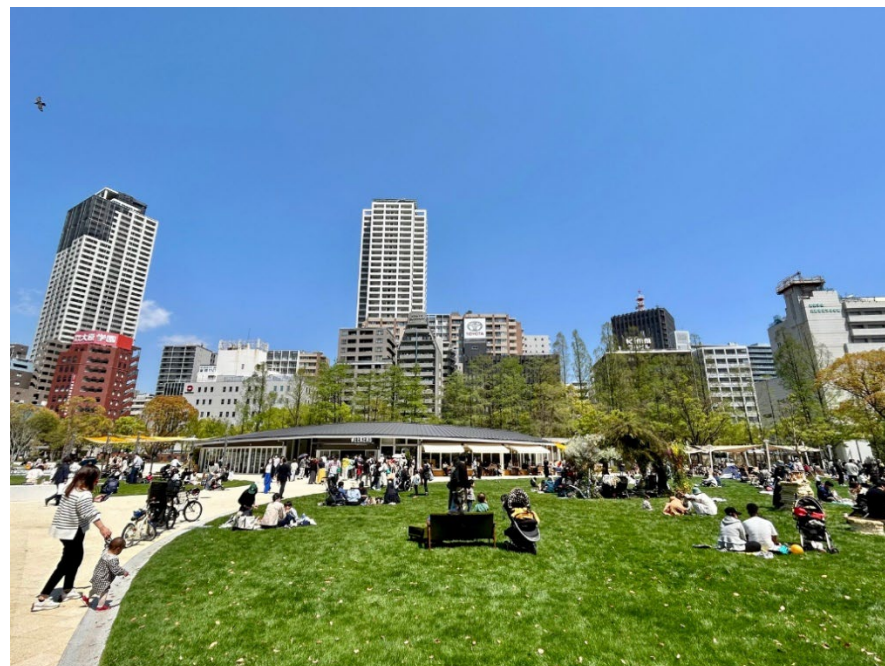
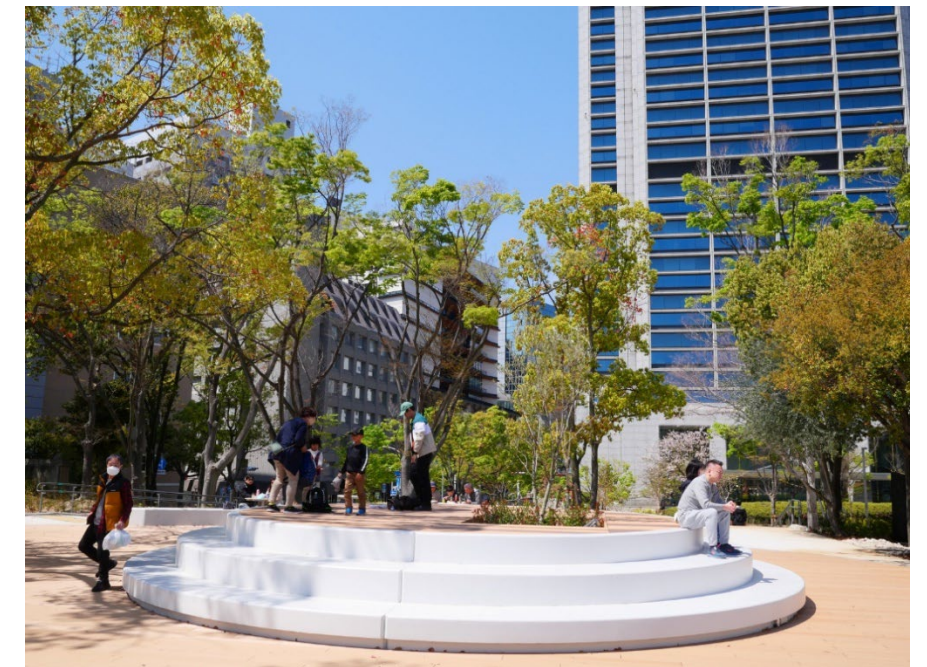
事業名(所在地)	公園名	都市名	開業時期	公募設置等計画の有効期間	公園全体面積(ha)	公募対象公園施設	特定公園施設
		担当部署			事業対象面積(ha)	事業者提案	事業者提案
横浜動物の森公園未整備区域における遊戯施設等設置事業(横浜市)	横浜動物の森公園	横浜市	2019年9月14日	20年(2039年4月11日)	103.3	遊戯施設等	散策等を楽しむための施設、利用者の利便性等が向上する施設
		環境創造局公園緑地部			3.3※森を楽しむゾーン、入口ゾーン	アスレチック施設、多目的トレイル、森の研修施設	遊歩道等
大蓮公園及び旧泉北すえむら資料館管理運営事業(堺市)	大蓮公園	堺市	2020年8月1日	20年	15.46	資料館の転用による飲食・サービス等便益施設	駐車場、園路・広場等
		市長公室ニュータウン地域再生室			15.35	カフェ・バーベキュー施設・私立図書館・コミュニティ支援拠点、キャンプサイト等	駐車場・バンポトラック等
大宮交通公園整備事業(京都市)	大宮交通公園	京都市	2021年4月1日	20年(2039年10月頃)	2.1	店舗・飲食等の賑わい創出に資する施設、ゴーカートに替わる乗り物等	管理事務所、園路・広場、トイレ等の再整備
		建設局みどり政策推進室			1.8	飲食店、売店等(センター)	プレイグラウンド、サイクルロード、回遊路、自転車広場、駐車場等
鉄輪地獄地帯公園整備運営事業(別府市)	鉄輪地獄地帯公園	別府市	2020年4月下旬予定 →2021年4月27日	20年(2039年3月末まで)	8.3	1日中過ごせる公園の実現に寄与する便益施設	駐車場、便所、エントランススペース等
		建設部公園緑地課			7.4	グランピング宿泊棟、センターハウス、カフェ、バーベキューブース、厨房、トイレ	トイレ、エントランススペース、駐車場
中瀬草原整備・運営管理事業(平戸市)	中瀬草原	平戸市	2020年4月4日	20年	8.7	休養施設、遊戯施設、運動施設、教養施設、便益施設等	公募対象公園施設の外構
		建設部都市計画課			8.7	キャンプ場管理棟(カフェ、物販、調理室、トイレなど)	園路、倉庫、ごみ集積場
中央公園整備及び管理運営事業(佐世保市)	中央公園	佐世保市	2022年4月1日	2040年3月まで	13.7	便益施設、運動施設、休養施設等、自由提案施設	駐車場、トイレ、屋内遊び場、園路、広場、屋外遊び場
		企画部政策経営課			5.4	売店、物販店、飲食店、キャンプ利用案内、地域物産店	屋内遊び場、屋外遊び場、駐車場
海の中道海浜公園官民連携推進事業(福岡市)	海の中道海浜公園	国土交通省九州地方整備局	2022年3月15日	20年以内	297.7(供用面積)	宿泊施設、駐車場、その他公園施設	屋内遊び場及び屋内休憩所、その他公園施設
		国営海の中道海浜公園事務所			159.0	球体テント、グイラ、センター棟、レストラン&カフェバー、立体アスレチック施設、BBQ(デイキャンプ)、厩舎、ドッグラン、駐車場	交流施設(大屋根下)、屋内遊び場(旧レクチャールーム/旧売店)、サニタリ棟
愛知県営小幡緑地公園施設の設置及び管理運営(名古屋市)	小幡緑地	愛知県	2021年4月20日	20年	79.4	便益施設、遊戯施設、駐車場	園路・広場、休憩施設(ベンチ・野外卓)、管理施設(柵・照明施設)、植栽等
		都市整備局都市基盤部公園緑地課			1.6(必須提案区域) 2.4(任意提案施設区域)	BBQサイト、キャンプ場、ピュッフェレストラン	農園、園路
観音山ファミリーパークPark-PFI事業(高崎市)	観音山ファミリーパーク	群馬県	2021年1月9日	20年	60.3	休養施設、遊戯施設、運動施設、教養施設、便益施設、展望台又は集会所	全ての公園施設
		県土整備部都市計画課公園緑地係			25(提案範囲)	フードキッチン棟・レストラン棟・休憩スペース	日除け小屋1棟
東大阪市花園中央公園エリア官民連携魅力創出整備事業(指定管理者募集)(東大阪市)	花園中央公園	東大阪市	2023年4月1日予定 →2022年9月17日 (一部店舗)	17年(2040年3月31日)	30.0	休養施設、遊戯施設、運動施設、教養施設、便益施設、展望台又は集会所	トイレ、案内板の更新、(園路、広場、地盤整備、運動施設、花と緑の交流施設、総合受付窓口、ニュースホーツエリア、あづま屋等)
		経営企画部企画室			0.54	カフェ及び食品・飲食提供店舗、バーベキューエリア	トイレ、園路など

(出典：各事業の公募資料をもとに作成)



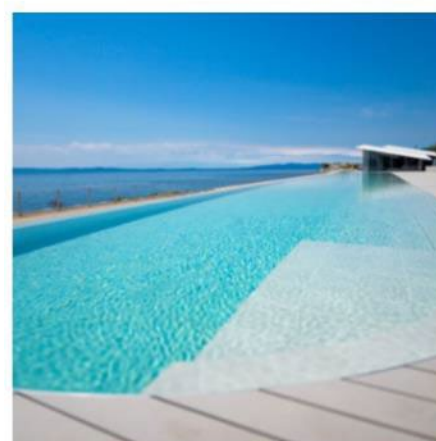
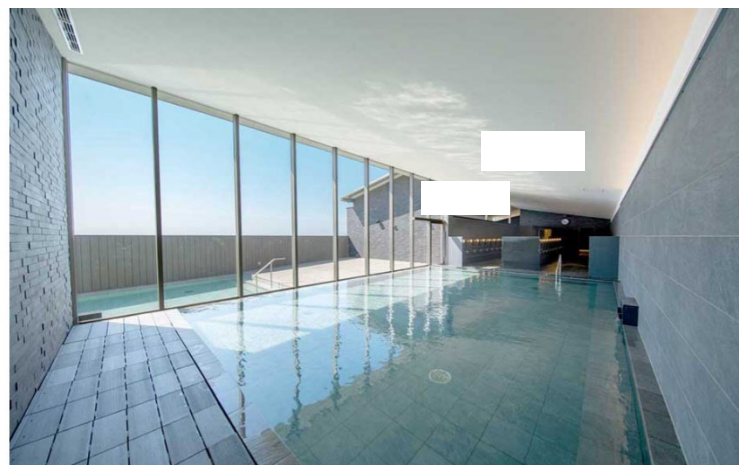
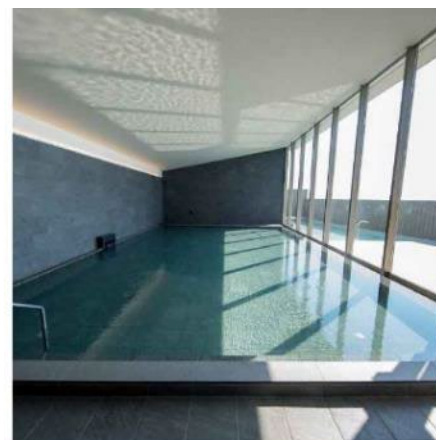
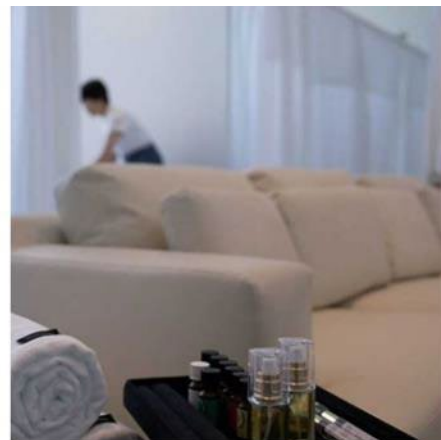
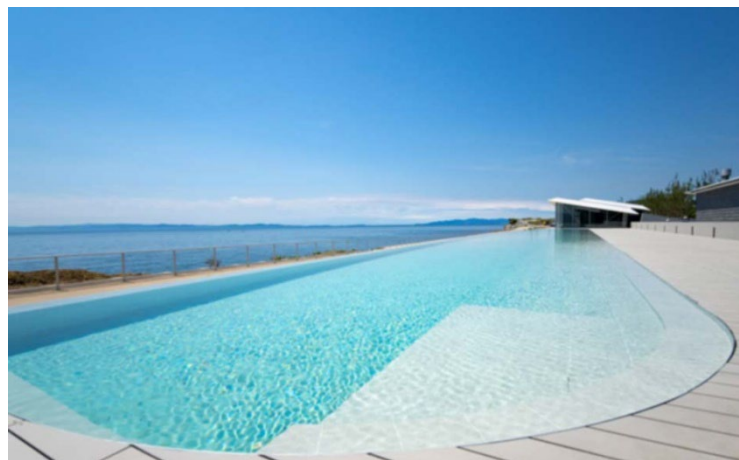


- 神戸市の「都心・三宮再整備」における回遊性向上の拠点として、更なる日常的なにぎわいや利活用を図るため、Park-PFIを活用して再整備を実施（2023年4月7日リニューアルオープン）
- 2015年度から実施してきた社会実験「アーバンピクニック」の結果を踏まえ、多様な規模の会場として利用しやすい施設計画、大規模なイベントのほかに多数の日常的な学びのプログラムを開催予定
- 市民によるレクチャー発信や市民のイベント主催者側への参画等、市民が育てる公園を目指す



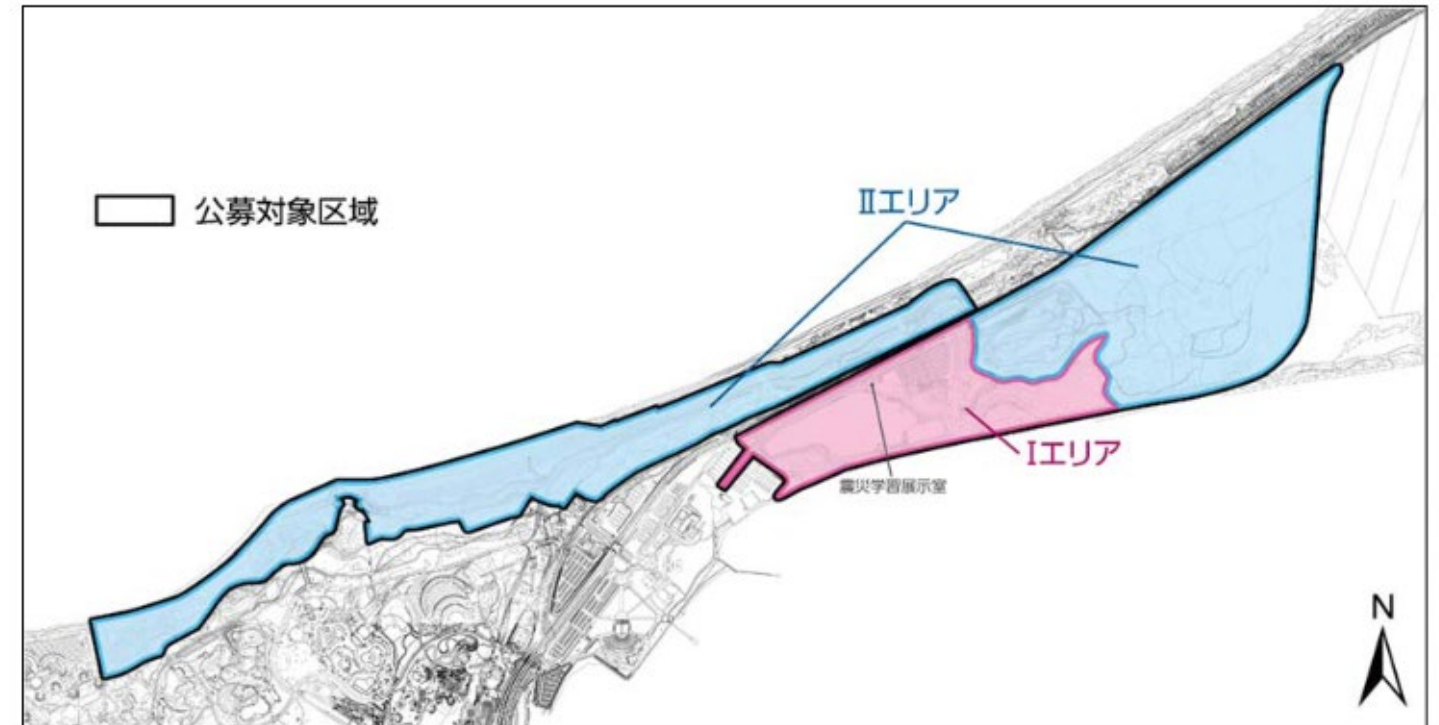


- 海辺の展望を活かした「食と健康」をテーマとして非日常空間の創出、地元食材・産品を活かした豊かな食経験の提供、健康を追求できる空間の提供、地元企業と協働した地域活性化を目指している
- 公募対象公園施設として温浴施設、カフェ、レストラン、サイクル、広場を整備
- 特定公園施設として園路、芝生広場等を整備
- アクアウォーキングやSUPヨガ等の浴中運動プログラムを展開





- 「海の中道を遊び尽くすための滞在型レクリエーション」をテーマとしてファミリー層だけでなく、新たな利用者層を呼び込むなど、公園の魅力を向上させ、公園利用者がより一層増加するような事業を実施
- 公募対象公園施設として球体テント、ヴィラ、センター棟、レストラン&カフェバー、立体アスレチック施設、BBQ(デイキャンプ)、厩舎、ドッグラン、駐車場等を整備
- 特定公園施設として交流施設、屋内遊び場等を整備







- 今後、神戸空港に国際線が就航することが決まっており、大阪・関西万博が開催される2025年にはチャーター便を、2030年頃には定期便を1日最大40回発着させる予定となっている
- 神戸空港に就航しているB737-800型の航空機の場合、韓国や台湾、中国・上海のほか、グアムやサイパン、ベトナムやタイ、シンガポール等が商圏に入り、アジア圏からの訪日外国人観光客がターゲットとなり得る
- 今後、関西への訪日外国人観光客は2030年に1550万人、2040年に2350万人に達すると試算されている

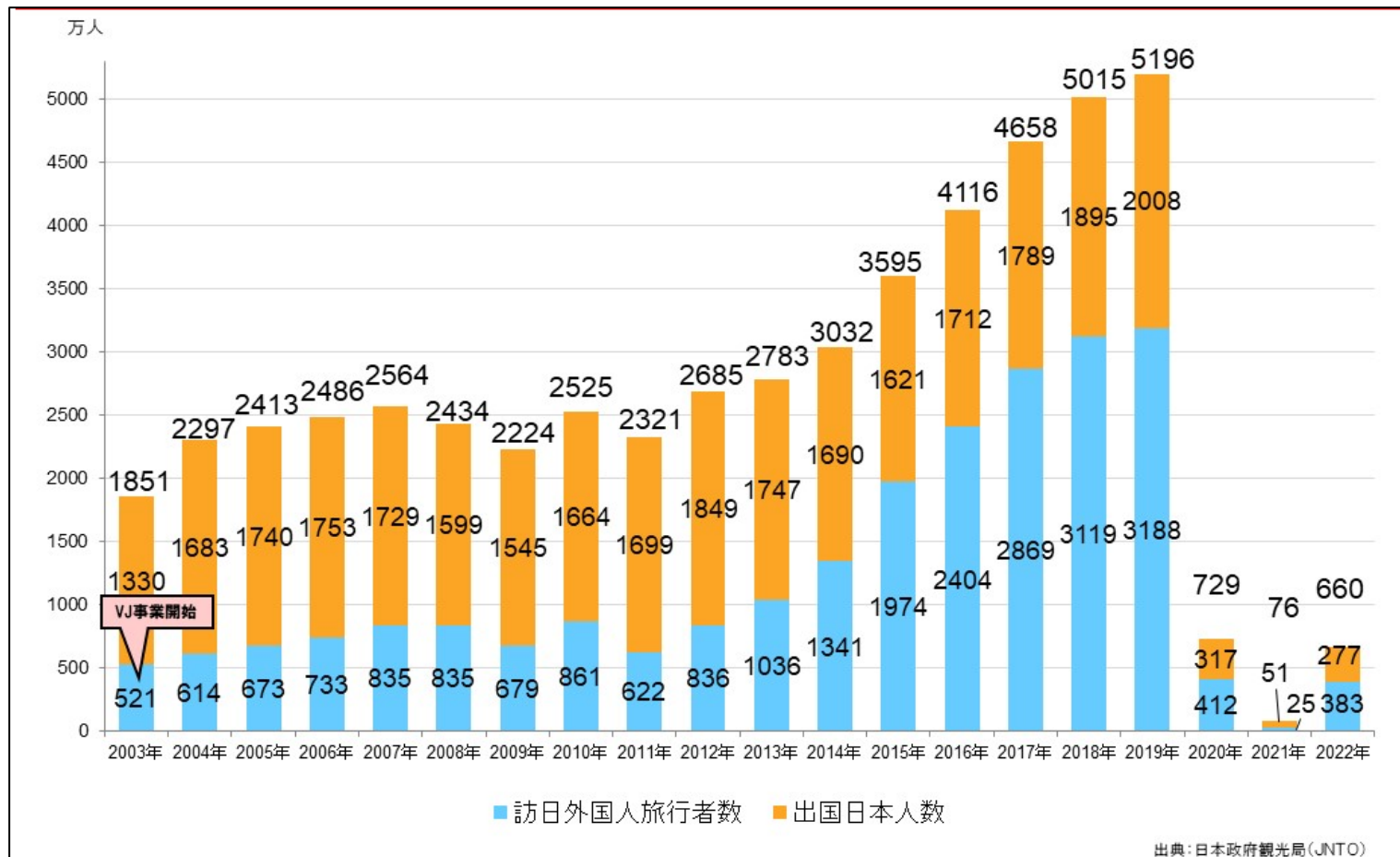


図 訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移  
 (出典：国土交通省 観光庁 統計情報・白書  
[https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in\\_out.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in_out.html))

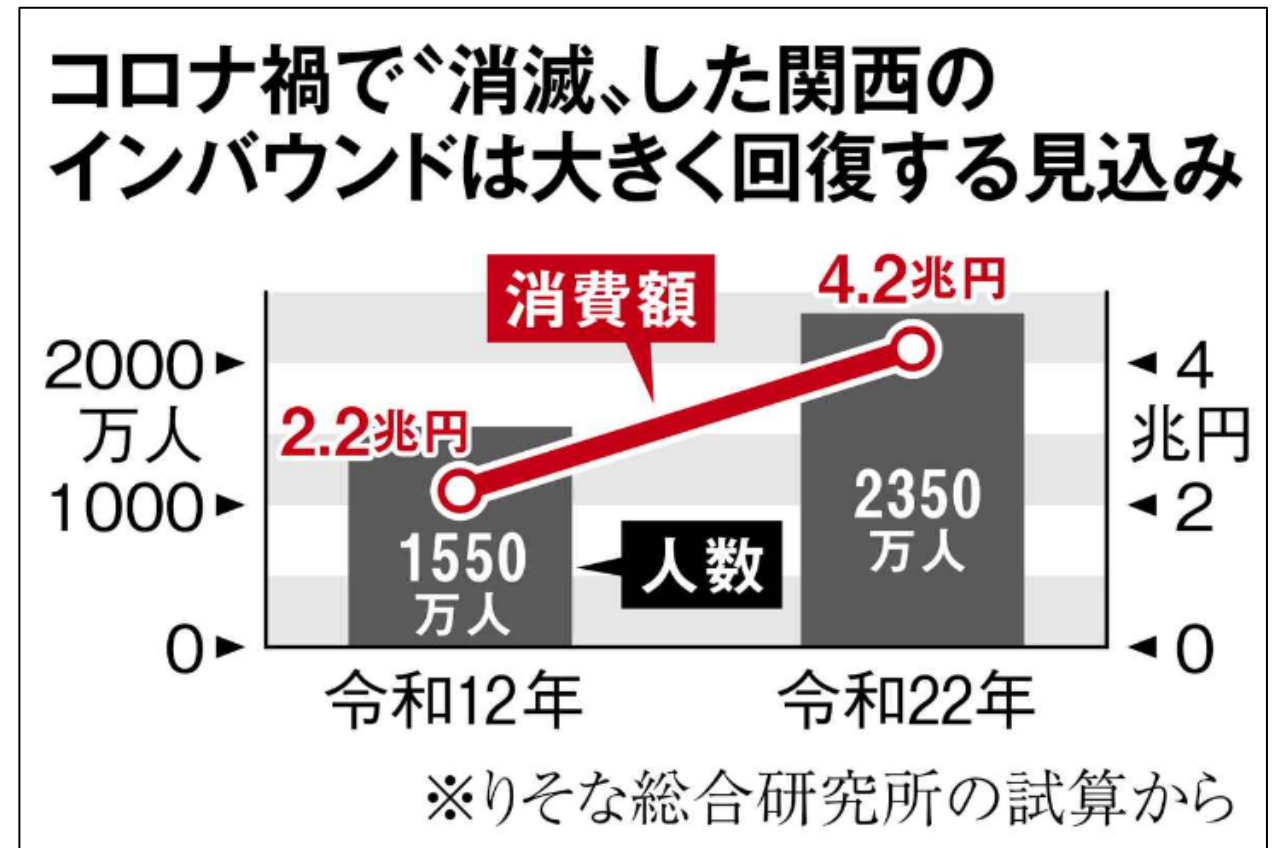
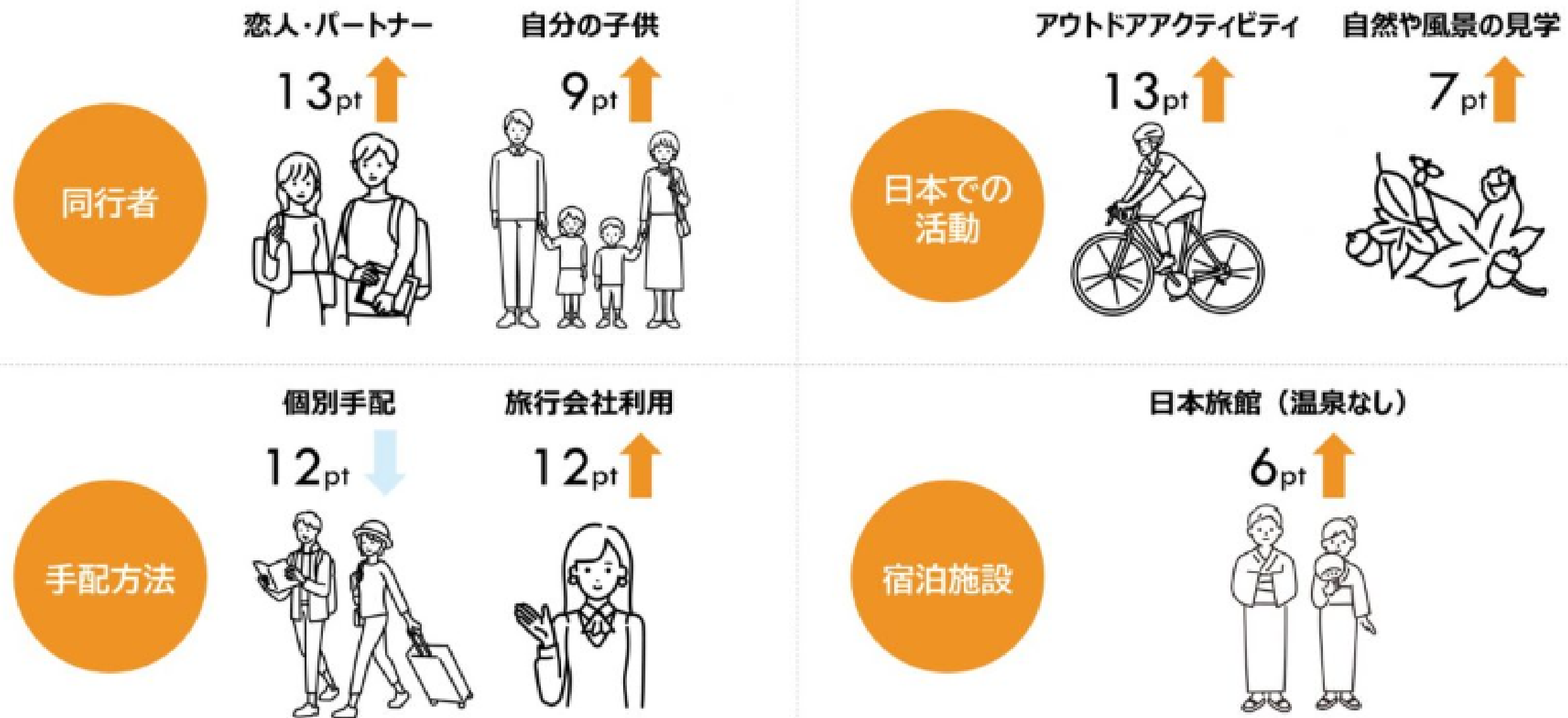


図 関西のインバウンドの回復見込み

(出典：産経新聞記事2022年9月18日  
<https://www.sankei.com/article/20220918-VTCOBAC77BM5NDITCXHBCWLK14/>)



- 2021年に実施された調査では、新型コロナ前後における訪日外国人観光客の嗜好の変化としては、アクティビティや自然・風景の見学が増加



データ:「DBJ・JTBFアジア欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」(2019年度版・第3回新型コロナ影響度特別調査)より筆者作成  
 ※数字は新型コロナ流行前に実施した「DBJ・JTBFアジア欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」(2019年版)と新型コロナ流行後に実施した同調査の第3回新型コロナ影響度特別調査を比較したものである。



- 新型コロナの前後において国内のアウトドア用品市場は好調に推移している
- 国内のキャンプ人口は新型コロナの流行前は増加傾向であったものの、新型コロナの流行により一時著しく減少したが、2021年から再度増加傾向に転じている
- 前頁の結果からは新型コロナによってアウトドアアクティビティや自然体験等の需要が増加していることが伺えるが、キャンプ人口やアウトドア用品市場の結果からは新型コロナの流行前から、アウトドアアクティビティ等の需要は増加傾向であったことが伺える

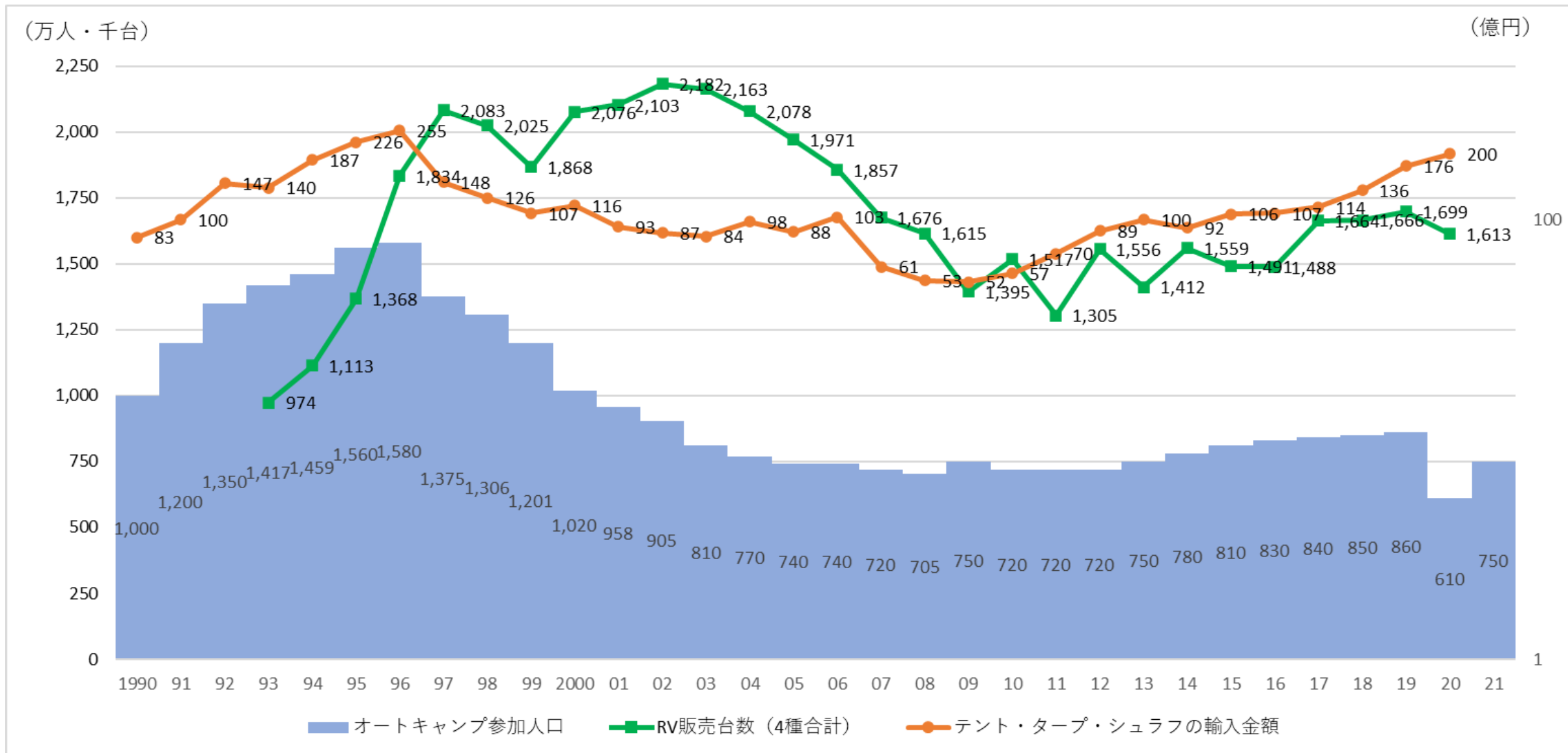


図 テント・タープ・シュラフ購入金額等の推移

(出典: 月刊レジャー産業資料2021年12月号、オートキャンプ白書2022より作成)